

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人介護事業部の理念及び事業所理念に沿い、サービスを提供している。今年度、事業所理念を新たに作成していたが、次年度2ユニット化が決まった為、次年度新しい施設での理念を作成予定。	事業所の理念作成については、職員一人ひとりから理念を提案してもらい、職員会議で説明しながら発表が行われていた。今後も2ユニット化に向けて地域性や特徴等も加味しながら職員で検討し、事業所の理念作成に向けて継続していく予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設便りや行事案内を地域回覧で回してもらっている。今年度はコロナウイルスの為、柿や野菜をもらったり、行事へのお誘い等の地域との交流は自粛している。	事業所と地域との日常的な交流はあるが、利用者の散歩等も含め今年度は自粛している。事業所からは月1回の広報誌を回覧板に載せ活動の様子を発信している。また、地域包括支援センターやケアマネ事業所にも、毎月の現状報告と利用者の生活の様子を発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設便りを地域回覧で回して頂き、施設での様子や取り組みを継続してお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、コロナウイルスにより施設への面会、立ち入りを自粛しているため、運営推進会議は休止している。2ヶ月に1回、書類にて報告。意見・要望等は電話等で受付している。	運営推進会議は、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議が行われるが、現在は休止となっている。事業所の近況報告や活動報告等は書類にて報告され意見をもらえるよう努めている。	運営推進会議を休止している中、メンバーには書類にて報告されている内容など、同じく利用者の家族へも配布されることが望ましい。意見・要望を引き出すきっかけとなるよう全職員で共有し更なるサービス向上に活かしていくことが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルスの為、意見交換を行う機会がなくなっている。不定期だが、行政の窓口にて係の担当職員と意見交換は行っている。また、不定期だが、電話での話す機会も去年より増えている。	町の担当職員とは、感染予防のマスクや支援金等で窓口に行き相談することが増えている。地域のテレビ電話があり、熊出没や災害、大雪、道路などの情報収集がスムーズにできる環境と広報メールも流れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除き玄関等の施錠は行っていない。職員も行動制限や身体拘束等に関して施設内研修や職員会議で話し合い、理解した上で業務に当たっている。現状において身体拘束等は行っていない。	身体拘束をしないケアについて身体拘束禁止の会議等で話し合ったり、研修の「高齢者の権利擁護と虐待の定義」により、身体拘束をしないケアの理解と実践が行われている。その都度、新人職員用にも行っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内身体拘束適正化委員会や職員会議で話し合い、理解を深めている。	職員会議議事録の中には、虐待の基本的な考え方、定義と類型、高齢者虐待の具体例について研修している。「大切な自分の家族と同じように」接し、見て聞いて恥ずかしい言葉・態度・対応がないように職員全体で注意し合える関係性が築けるよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、年1回内部研修で定期的に学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項説明書などを用いてご本人、家族が納得、理解して頂けるよう十分に説明を行い契約の締結を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルスの為、面会制限をしているので、電話での対応や稀に事業所に来られたご家族様とは、玄関先で対応させて頂いている。特に運営に関わる意見はなかった。	家族の訪問時、「自然に迎え入れてくださるので、面会に行きやすい雰囲気がある」とアンケートへの記入があり、意見や要望等も何でも言えるように配慮されている。また、職員会議に参加したいという利用者からは出席してもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回職員会議を開催し、職員が意見できる環境を整えている。会議も職員主体で進行しており、意見が言いやすい環境となっている。また、事業所で解決できない事は、管理者会議などで上司に意見を上げている。	毎月の職員会議で検討事項を話し合い、その中で職員の意見や提案を聞き必要なことは、管理者会議で判断・決定し運営に反映されている。管理者は職員が考えて行動できるようサポートしている。職員会議議事録は、職員に任しており持ち回りで担当し、職員はいつでも確認できるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の管理者会議にて職員が働きやすい環境作りの為、職員からの意見を下に、就業規則や内規についての改善、変更を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業計画を任せ事業所運営に参画する事で人材育成を行っている。コロナウイルスの為、外部・法人内部研修は、今年度の参加はなし。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年はコロナウイルスの為、意見交換や交流出来る機会がなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居にあたり、不安に思っている事や心配な事などを十分に傾聴し、安心、納得してもらえるまで何度も説明するよう心掛けている。また、家族との繋がりの継続に向けて働きかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時及び入居後も、グループホームでの生活などの不安や要望はできる限りお聞きし、安心して頂けるよう説明を行っている。施設での生活の様子なども定期的に報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時、ご本人様、ご家族様への利用説明において、状況等の確認、把握をしながら必要に応じて、他サービスの説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩であるという認識を共有しており、習わしや、郷土料理等を通じて入居者様の知識や経験を学ばして頂いている。入居者様同士の支え合いを阻害しないよう皆で暮らすことの重要性を認識している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月入居者様の生活の様子などをお便りを送り報告している。近隣の家族の方には、月に1度の面会をお願いし関わりを絶やさないように心掛けている。	現在、面会は玄関にての対応となっている。衣類等は預かって利用者と担当職員と一緒に整理を行っている。「俳句の本が欲しい」と希望された利用者には家族にその旨をお伝えし購入してもらおう事もある。通院の付き添いや広報誌で行事や日常生活の様子を伝えるなど家族と共に支え合う関係作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年はコロナウイルスの為、年間を通して面会制限を掛けさせて頂いているので、面会する機会はなかった。ご家族とは、手紙や電話で対応させて頂いている。	家族からの理解を得て、今年の活動は自粛し慎重に過ごしている。そのような中でも、事業所へは3ヶ月に1回、長年継続されている地域の床屋さんが利用者の整髪を担当し定期的な関係が築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自分の生活リズムを1番に考え、無理には進めないが、出来る限り同じ場所、同じ空間で生活して頂けるようにしている。また、入居者様同志が助け合い、支え合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用や契約が終了しても関係を断ち切らず、町内でお会いした時は、現在の状況を聞いたり、継続的な付き合いを大切にしよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いや希望などは出来るだけ実現できるよう配慮している。出来る限りご本人様の思いや希望を聴き、ケアプランや個別サービスに反映している。	利用者が思いや意向を職員に気兼ねなく話せるように、一日の中で、1人5分はゆっくりと関わり話を聞いている。入所時には分からなかったが、最近になり把握した情報等も職員と共有することができている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし、生活環境、これまでのサービス利用の経過等をご本人、又はご家族に聞き把握に努めている。	入居前のベッドや家具の配置に沿って、事業所での環境もできるだけ近づけようとの思いから、家族と利用者の意向で決めてもらえるよう個別に対応している。昔取り組んでいた編み物や俳句等、これまでの暮らしが継続されるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が把握できるように、定期・不定期だが会議にて入居者様のことについて話し合う機会を作り、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人に意見や意向の確認、受診時に主治医や面会時や電話にてご家族様から意見を聞き、また日頃から関わる事が多い職員からも意見を聞き、介護計画を作成するように心掛けている。	介護計画作成者は、本人の意向や家族の希望など確認し、担当職員は、日々の支援や変化を経過記録に記入し、確認しながら支援している。職員からの利用者状況や変化等の様子や伝言が一目でわかるよう「状況評価表」にまとめ、計画作成者はサービス担当者会議を3ヶ月に1回行っている。以前は参加される利用者や家族がおられたが、コロナ禍以後、利用者の意向を確認し、電話等で家族に意向を伺い計画書を送付し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施と結果、気づきや工夫を個別の記録に記入している。情報を共有しながら実践したり、介護計画、サービスの見直し、変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況、その時々々の要望に応じて、併設施設の職員に意見を聞いたり、主治医や看護師に相談や意見を頂き、柔軟な対応ができるように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、速やかに協力、相談できるように地域資源の把握や、いざという時に相談できる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人及びご家族が希望される医院や馴染みの医院を優先とし、かかりつけ医と事業所の連携を強化し、適正に対応出来るように心掛けている。</p>	<p>以前は家族との受診を基本としていたがコロナ禍の現在、ほとんど職員同行での受診となっている。医師とのやり取りや指示は利用者個々の「健康ファイル」に記入してもらい、記録に残るように連携が取れている医療機関もある。今後も適切な医療を受けられるよう配置された看護師も含め、連携しながら支援していけるよう管理者は考えている。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週2日、併設施設の看護職員が勤務しており、入居者様の健康管理や特変時の対応、指示をお願いできる体制が構築されている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>今年は、面会制限の為、入院中は面会に行く事が出来なかった。直接は難しかったが、看護師から病状の説明等を受けるようにしている。スムーズに退院、受け入れが出来るように、メディカルソーシャルワーカー等との情報交換や相談に努めている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看護職員配置により、ご家族様に入居者様の重度化及び終末期についての意見を頂いている。また、今後重度化した場合の相談体制についても話し合いを行い、意見や考えの共有に努めている。</p>	<p>入居時に看取りについて説明し、事業所の方針や実施内容についての同意を得ている。しかし、事業所周辺地域には、24時間の往診可能な医師がおらず、終末期の利用者対応には、難しいところもあり、今後も継続して検討していく必要があると管理者はじめ職員は意見を共有しながら取り組んでいる状況である。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員を配置したので、新たに緊急時の対応や連絡方法など、事業所内で冷静に対応できるようにしている。	急変や事故発生についてのマニュアルが整備されている。オンコール対応等も行っているが、緊急時は管理者への連絡を優先して行っている。公立の病院が直ぐ近くにあり、対応してもらえる体制はできている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、併設の施設だけではなく、地域の方の協力も区長にお願いしている。年2回の避難訓練を実施している。	地域は、自然に恵まれた素晴らしい展望とともに、すぐ近くを流れる阿賀野川に関する水害の危険が数年に1度はあるとのこと。事業所は、高台の元小学校の跡地にあり、水害被害は今までないが、近くの道路の冠水で、道路が寸断し、近隣の方とともに、水害時孤立の恐れがあった。今後も地域の方と継続して検討と協力を確認し協力して行くことが望まれる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議の議題の1つとして毎月1~2回、接遇についての話し合いや改善等を全職員で行っている。	入浴介助・排泄介助時の声掛け、誘導の仕方など会議で話しているが、利用者の薬や細やかなプライバシーまでは話しておらず、研修は行われていない。	一人一人の利用者の持つ権利や人格の尊重・誇りやプライバシーを大切にすることは、その人らしい生活の基本となる事なので、職員全員が参加できる研修実施とともに、様々なマニュアルの整備と見直しを、定期的且つ適正になされることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定できるように、職員は傾聴に気をつけており、職員の都合などは押し付けないように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活のリズムやペースを大切にし、ご本人の意思や希望を確認しながら臨機応変に対応できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望、意向により美容室に行ったり、訪問理容の方に来て頂いている。日常の衣類もご本人がタンスやクローゼットから好きな物を選んで頂いている。入浴時も本人を選んで頂く様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備など職員と一緒に作業をすすめており、個々の能力の維持になっている。食べたい物や好き嫌い、食後においしかったかを聞いている。	以前は、利用者と共に食材を購入しに出かけたが、コロナ禍の現在、利用者は買い物には出かけられない状況である。敷地内にある畑では、利用者も参加しての畑づくりや収穫された野菜などを使い、皮をむいたり、切ったりすることに参加したり、調理やご飯を炊く匂いなどを大切にしており、食べる楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の状態に応じた食事内容や食事形態、栄養バランス、季節の物や塩分など主治医や看護師、職員で検討しながら食事の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず歯磨きの声掛けを行っている。居室でやる方、ホール内の洗面台でやる方など個々に合わせて実施している。歯磨きが不十分な方には介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ自力で排泄して頂けるよう早めに声を掛けたり、定時トイレ誘導など1人ひとりに合わせて支援し、排泄パターンを把握するように心掛けている。	トイレは広く清潔に保たれている。職員は、排泄チェック表を記入、確認し活用しながら、支援している。水分摂取量の把握なども含め適切に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、食物繊維の多い食材や乳製品などの摂取、体操等に取り組んでおり、出来るだけ便秘のないように排泄パターンの把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間などの設定はされているが、入居者様の希望時間や希望日など、できるだけ入居者様に合わせて入浴の提供を行っている。また、入浴剤などで入浴時もゆっくり楽しめるようにしている。	入浴の大まかなことは決めているが、利用者の状態や希望により柔軟に対応している。入浴時、利用者は職員との関わりや会話を楽しむことも多く、一人一人の利用者の適温や入浴の状況を確認しながら、ゆっくり楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず、その時の状況や体調、習慣などで休みたい時には好きな時間に、自由に休息できるよう環境の整備、又は支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護職員が一括して行っているが、薬の目的や副作用についてを職員間で情報を共有できるように日々看護職員との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴や能力、力を活かして調理の準備やお茶入れ、配膳、掃除など担当してやって頂いている。レクリエーションやドライブなどの外出などで気分転換して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナウイルスの為、買い物や外出等は自粛させて頂いている。	今年は新型コロナウイルスで外出支援のドライブや散歩などが自粛されている。コロナ禍が落ち着いたら、元のような生活に戻れるようにと利用者と職員は話しあい楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望、能力、ご家族の同意の下、お金の所持や使えるよう支援している。その他は預かり金として施設側が管理して必要に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がご家族、兄弟、親戚等に電話を希望された場合は本人に電話を掛けて頂くか、職員が電話を掛け、つながったら本人に替わりお話しをして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内、壁面などには季節に応じて装飾を変えている。行事の時に写した写真やレクリエーションで作成した作品などもホール内に貼っている。植木も時期によってはホール内に置き、水やりをして頂いたり、植物に触れることにより気分転換できるよう支援している。	行事の時の写真や季節の装飾など、担当係を決めてのコンセプトの下で掲示しており、利用者も水やり等で関わっている。室内犬や猫等と共に生活することで、利用者は精神的に癒され、落ち着いた様子が窺える。	ホール入り口付近に、積み重ねられた様々な荷物があり、地震避難時など利用者歩行に影響を与えることが考えられる。今後は安全・安心に配慮しながら整理整頓に努めることが望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニング(食堂)、リビングの他に、視覚的に個別空間となりうるよう区分した場所を配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者、ご家族と相談をして居室内の飾りつけや、入居時など使い慣れた物や思い出の物も持ってきて頂き、居心地良く過ごせるように心掛けている。また、担当の職員が定期的に、ご利用者と一緒に整理整頓を行っている。	1週間に2回、居室清掃を利用者と共に行っている。また、コロナ禍で家族の方が事業所内に入らない形なので、職員がそれぞれの居室にあるクローゼットの中や衣類の整理も利用者と共に、または利用者に見ていただきながら一緒に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などは分かりやすく工夫しており、居室なども能力に応じて装飾品などで目印をつけ自立した生活を送れるようにしている。また、定期的に入居者に確認しその都度改善している。		